

# 伊 倉 城 跡

市道船津宮原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成 25 年(2013) 3 月

玉名市教育委員会



# 伊 倉 城 跡

市道船津宮原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成 25 年(2013) 3 月

玉名市教育委員会



## ご 挨 拶

玉名市は、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、豊富な文化財が所在する地域です。九州新幹線の開業後、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を続けています。

このような中、玉名市教育委員会ではさまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行に努めております。公共及び民間の様々な事業に対応するため、常に玉名市内に所在する文化財の状況把握に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

本書は、市道船津宮原線道路改良工事に先立ち、玉名市教育委員会が平成24年度に実施した、伊倉城跡（宮原土井の内遺跡）の発掘調査報告書です。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成 25 年 3 月 29 日

玉名市教育委員会

教育長 森 義臣

## 例 言

1. 本書は、市道船津宮原線道路改良工事に先立ち、平成 24 年度に玉名市宮原において発掘調査を実施した伊倉城跡の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 調査は、平成 24 年 6 月 11 日から 8 月 17 日にかけて実施し、田中康雄（文化課文化財係主査）が担当した。
3. 調査に伴う遺構の実測ならびに現地の写真撮影は、田中が行った。
4. 出土遺物の整理作業は、田中が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
5. 遺物の実測は、田中が行った。
6. 遺構・遺物の製図は、藤井めい子が行った。
7. 遺物の写真撮影は、田中・末永崇（文化課文化財係主任）が行った。
8. 挿図に使用している座標値は、世界測地系の第 2 座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
9. 土層および遺物の色調は、「新版標準土色帖」（日本色研事業株式会社発行）に基づいている。
10. 本書の執筆・編集は田中が行った。
11. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。

# 本文目次

序文

例言

## 第Ⅰ章 はじめに・・・・・・・・・・・・・1

### 第1節 調査にいたる経緯と組織・・・・・・・・・・・・・1

#### (1) 調査経緯・・・・・・・・・・・・・1

#### (2) 調査組織・・・・・・・・・・・・・1

### 第2節 地理的環境・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・1

#### (1) 地理的環境・・・・・・・・・・・・・1

#### (2) 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・2

## 第Ⅱ章 調査方法・・・・・・・・・・・・・5

### 第1節 調査区の設定・・・・・・・・・・・・・5

### 第2節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・5

## 第Ⅲ章 調査成果・・・・・・・・・・・・・6

### 第1節 調査概要・・・・・・・・・・・・・6

### 第2節 層位・・・・・・・・・・・・・6

### 第3節 遺構及び遺物・・・・・・・・・・・・・9

#### (1) 中世期の遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・9

##### 1. 土坑・・・・・・・・・・・・・9

##### 2. 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・12

##### 3. 小穴・・・・・・・・・・・・・14

##### 4. 遺構外の出土遺物・・・・・・・・・・・・・16

#### (2) その他の遺物・・・・・・・・・・・・・19

## 第Ⅳ章 考察・・・・・・・・・・・・・20

参考文献

写真図版

報告書抄録

# 插图目次

## 第1図 調査地位図・・・・・・・・・・・・・3

## 第2図 周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・4

## 第3図 調査区全体図・・・・・・・・・・・・・5

## 第4図 基本土層図（上段）・・・・・・・・・・・・・6

## 第5図 基本土層図（下段）・・・・・・・・・・・・・6

## 第6図 遺構配置図（上段）・・・・・・・・・・・・・7

## 第7図 遺構配置図（下段）・・・・・・・・・・・・・8

## 第8図 S02 実測図・・・・・・・・・・・・・9

## 第9図 S02 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・9

## 第10図 S03 実測図・・・・・・・・・・・・・10

## 第11図 S03 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・10

## 第12図 S07 実測図・・・・・・・・・・・・・11

## 第13図 S07 出土遺物実測図1・・・・・・・・・・・・・11

## 第14図 S07 出土遺物実測図2・・・・・・・・・・・・・12

## 第15図 S07 出土遺物（古銭）・・・・・・・・・・・・・12

## 第16図 S01 実測図・・・・・・・・・・・・・12

## 第17図 S01 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・13

## 第18図 S04・05・06 実測図・・・・・・・・・・・・・13

## 第19図 S05・06 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・14

## 第20図 P7・P23・P33 実測図・・・・・・・・・・・・・14

## 第21図 P66・P78・P80 実測図・・・・・・・・・・・・・15

## 第22図 小穴内出土遺物実測図1・・・・・・・・・・・・・15

## 第23図 小穴内出土遺物実測図2・・・・・・・・・・・・・16

## 第24図 遺構外出土遺物実測図1・・・・・・・・・・・・・17

## 第25図 遺構外出土遺物実測図2・・・・・・・・・・・・・18

## 第26図 遺構外出土遺物実測図3・・・・・・・・・・・・・19

# 表目次

## 表1 周辺遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・4

## 表2 古銭観察表・・・・・・・・・・・・・12

## 表3 小穴一覧表・・・・・・・・・・・・・22～24

## 表4 出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・25～30

## 写真目次

写真 1	調査地全景 (下段) . . . . .	33
写真 2	調査地全景 (上段) . . . . .	33
写真 3	S02 完掘状況 . . . . .	33
写真 4	S03 完掘状況 . . . . .	34
写真 5	S07 完掘状況 . . . . .	34
写真 6	S01 完掘状況 . . . . .	35
写真 7	S04 完掘状況 . . . . .	35
写真 8	S05 完掘状況 . . . . .	36
写真 9	S06 完掘状況 . . . . .	36
写真 10	P7 石材検出状況 . . . . .	37
写真 11	P23 石材検出状況 . . . . .	37
写真 12	P33 石材検出状況 . . . . .	38
写真 13	P66 石材検出状況 . . . . .	38
写真 14	P78 石材検出状況 . . . . .	39
写真 15	調査風景 . . . . .	39
写真 16	S02 出土遺物 . . . . .	40
写真 17	S07 出土遺物 . . . . .	40
写真 18	S03 出土遺物 . . . . .	41
写真 19	S07 出土古銭 . . . . .	41
写真 20	S01 出土遺物 . . . . .	41
写真 21	S05・06 出土遺物 . . . . .	41
写真 22	小穴内出土遺物 . . . . .	41
写真 23	遺構外出土遺物 1 . . . . .	42
写真 24	遺構外出土遺物 2 . . . . .	42
写真 25	遺構外出土遺物 3 . . . . .	42
写真 26	遺構外出土遺物 4 . . . . .	42
写真 27	遺構外出土遺物 5 . . . . .	42
写真 28	遺構外出土遺物 6 . . . . .	43
写真 29	遺構外出土遺物 7 . . . . .	43
写真 30	遺構外出土遺物 8 . . . . .	43
写真 31	遺構外出土遺物 9 . . . . .	43
写真 32	遺構外出土遺物 10 . . . . .	43



## 第Ⅰ章 はじめに

### 第1節 調査にいたる経緯と組織

#### (1) 調査経緯

市道船津宮原線は、玉名市宮原地内に所在する。これまで地元住民の生活道路として利用されてきたが、幅員が2m程度と狭く、地元から拡幅の要望がなされていた。これをうけて、平成23年度に玉名市役所土木課により道路拡幅工事が計画された。一方玉名市教育委員会文化課においては、平成21年度に、道路拡幅部である現道北側耕作地（当時は蜜柑畑）での農地造成に伴い実施した埋蔵文化財確認調査の結果から、施工内容が埋蔵文化財に影響を及ぼすと判断した。このことから、両者協議の結果、拡幅部について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

#### (2) 調査組織

発掘調査体制及び整理・報告書作成作業に関わる組織は次のとおりである。

事業主体	玉名市役所土木課
調査主体	玉名市教育委員会
調査責任者	教育長 森 義臣
調査総括	文化課長 小山正義
調査庶務	文化課文化財係長 植原孝信
	主事 西山晋道
調査担当	主査 田中康雄

発掘調査現場作業員（50音順 敬称略）

麻生良友、植田トミヨ、岡本博子、北嶋百合子、主地本敦、谷口洋介、藤井めい子、前川直美、松本えり子

発掘調査整理作業員

北嶋百合子、藤井めい子、前川直美、松本えり子

### 第2節 地理的環境・歴史的環境

#### 1. 地理的環境

玉名市は、熊本県の北部に位置する面積約152平方キロメートル、人口約7万人の地方都市である。市域は、阿蘇外輪山の深業山地（阿蘇市）に発し、熊本県北部を有明海に向かって流れる菊池川下流域を占めている。その菊池川が市中央部を南に向かって貫流し、その周辺には、菊池川とその支流繁根木川による沖積世の堆積層で形成された玉名平野が広がっている。玉名平野の現在の標高は4.8～6m程度で、大部分が水田等の耕作地として利用されている。玉名平野は、その北西部で筒ヶ岳（標高501m）を主峰とする小代山地・丘陵地及びこれに続く台地・段丘と接し、北部では繁根木川を挟んで小代山地に面した白間山地と接している。また平野東部では、木葉川を境として北側で国見山（標高383m 山鹿市鹿央町）を主峰とする国見山地の丘陵地及びその南端部に位置する木葉山（標高286m）と接し、南部で金峰火山群の熊野岳（二ノ岳 標高685m）、三ノ岳（標高681m）を主峰とする金峰山地とこれに続く丘陵性台地（伊倉丘陵性台地）に接している。このように、平野の三方を山地・丘陵地等に囲まれており、平野と接する丘陵末端部の多くに集落が形成されているが、現在市中心市街地は、玉名平野の西部に接する玉名台地上に営まれている。平野

前縁部は、江戸時代以降から現代にいたる広大な干拓地が広がり、有明海と接している。

伊倉城跡は、菊池川下流域の左岸に面した伊倉丘陵性台地上に立地する。この丘陵性台地は、4段の段丘・丘陵地及び火砕流台地によりなるが、開析が激しく、台地内や縁辺部に多くの扇状地や崖錐が形成されている。当遺跡は、伊倉中心市街地が所在する段丘南西部の南に面した斜面上（標高約22～27m）に位置し、遺跡内には宅地と耕作地が混在している。以前は、弥生時代の包蔵地である宮原土井の内遺跡及び中世城館跡とされる中ん城跡として周知されていたが、平成10～14年度にかけて玉名市立歴史博物館こころピアにより実施された伊倉城跡範囲確認調査の結果、当該地が13～14世紀にかけて伊倉の地頭職であったとされる伊倉氏の城館跡である可能性が高くなり、現在は両者をまとめて伊倉城跡として周知している。

今回の調査地は、遺跡は中央部の耕作地にあたり、調査時の標高は24.1～25.6m程である。

## 2. 歴史的環境

伊倉城跡周辺には、縄文時代から近世にかけての遺跡が濃密に分布しているが、その大半は現地踏査等での確認であり、その内容が明確に把握されているものは少ない。

縄文時代の遺跡については、これまでに明確な集落跡等は確認されていないが、伊倉宮の後遺跡（28）や奥内迫遺跡（21）で縄文時代晩期の埋設土器が確認されており、伊倉八幡宮境内遺跡（33）や伊倉宮の後遺跡（28）で阿高式土器、御領式土器が確認されている。このことから、縄文時代中期頃から当台地上に集落が形成されたものと想定される。

弥生時代においては、現在のところ前期の遺構・遺物は確認されていない。中北遺跡（18）では、弥生時代中期の甕棺墓群及び弥生時代中～後期の集落跡が確認されており、伊倉古宮原遺跡（30）では、弥生時代中期の土器及び後期の集落跡が確認されている。

古墳時代においては、奥内迫遺跡（21）で古墳時代中期の集落跡が確認されている。また高田古墳（4）、岩井口横穴群（7）、垣塚古墳（9）、伊倉大塚古墳（15）、鳥越古墳（16）中北古墳（19）、印鐘神社古墳（52）、禮社遺跡（53 古墳参考地）といった古墳や横穴墓が点在している。

古代になると、玉名郡司日置氏により当地が開発され、その所領となったとされるが、同時期の明確な遺構は確認されておらず、各地で散漫に遺物が確認される程度である。古代末期になると、日置氏は没落し、伊倉には宇佐八幡宮の荘園である伊倉別符が成立する。

中世になると、伊倉別符領主宇佐氏と地頭職伊倉氏による所領争いが起こり、その結果下地中分が成されたとする。下地中分線は現在の県道肥後伊倉停車場山崎線と想定されており、その北側（伊倉北方）を宇佐氏、南側（伊倉南方）を伊倉氏が領有した。伊倉北八幡宮（31）と伊倉南八幡宮（32）は、下地中分に伴い、本来1社だったものが下地中分線を挟んで南北に分かれたものと考えられている。下地中分線北側には宇佐氏の居館跡とされるナカドンヤシキ（39）、宇佐氏一族の墓所である宇佐八幡宮関係古塔碑群（25）が、南側には伊倉氏の城館跡とされる伊倉城跡（51）が所在する。また中世の伊倉は国際貿易港として大きく発展しており、明人墓である振倉謝公墳（24）、肥後四位官郭公墓（47）や、吉利支丹墓碑（22）及び補陀落山渡海供養塔及び古塔碑群（26）はその名残であろう。また港としての発展とともに、多くの中世寺院が成立する。しかし、南北朝の争乱により南朝方の伊倉氏はその姿を消し、宇佐氏も次第にその勢力を弱めることとなる。戦国期には、大友、島津、龍造寺といった戦国大名の勢力争いの地となり、度々戦火に見舞われた。

近世になると、加藤清正の新地開発に伴い、菊池川の改修が行われ、その結果伊倉は港としての機能を失う。また中世末以降、多くの中世寺院も衰退し、代わって複数の浄土真宗寺院が成立する。



第1図 調査地位置図 S=1:100,000



第2図 周辺遺跡分布図 S=1:20,000

表1 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	伊倉天神平遺跡	弥生	23	報恩寺跡	中世	43	御治原町遺跡	中世
2	下高田遺跡	古代・中世	24	源倉御公墳	中世	44	唐人町貝塚	弥生～中世
3	高田遺跡群	中世	25	平佐八幡宮関係 古塔碑群	中世	45	唐人町遺跡	中世
4	高田古墳	古墳	26	補陀落山渡海供養塔 及び古塔碑群	中世	46	木下刀磨治跡	中世
5	立山遺跡	弥生	27	伊倉本村屋敷遺跡	古代・中世	47	肥後四位官邸公墓	近世
6	一本松遺跡	弥生	28	伊倉宮の後遺跡	縄文～中世	48	片岡訪遺跡群	縄文・弥生・中世
7	岩井口塚穴群	古墳	29	伊倉西本木遺跡	古代・中世	49	長福寺跡	中世
8	伊倉年の神遺跡	中世	30	伊倉古宮原遺跡	弥生・中世	50	寛真寺	近世
9	堀塚古墳	古墳	31	伊倉北八幡宮	中世	51	伊倉城跡	弥生～中世
10	東垣塚遺跡	中世	32	伊倉南八幡宮	中世	52	印輪神社古墳	古墳
11	千人塚	中世・近世	33	伊倉八幡宮境内遺跡	縄文	53	磯社遺跡	弥生・古墳
12	銅遺跡	縄文～古代	34	鹿角遺跡	弥生・中世	54	神田遺跡	中世
13	岩井口遺跡	縄文・中世	35	伊倉神宮寺跡	中世	55	関小野遺跡	弥生・古代・中世
14	向原遺跡	縄文・弥生・古代	36	福徳寺跡	中世	56	横田屋敷遺跡	縄文・弥生
15	伊倉大塚古墳	古墳	37	潮音寺跡	中世	57	片岡訪屋敷遺跡	弥生～古墳
16	鳥越古墳	古墳	38	吉原遺跡	弥生・中世	58	山下遺跡	弥生
17	北原遺跡	弥生・古墳	39	ナカドンヤシキ	中世	59	北牟田遺跡	近世・近代
18	中北遺跡群	弥生・中世	40	伊倉山太平寺	中世	60	北牟田塚墓群	中世
19	中北古墳	古墳	41	栄光寺	近世	61	田端池川堤防	近世
20	西田塚遺跡	中世	42	光尊寺	近世	62	妙光寺	近世
21	興内迫遺跡	縄文～中世						
22	吉利支丹墓群	中世						

## 第Ⅱ章 調査方法

### 第1節 調査区の設定 (第3図)

今回の調査は、市道船津宮原線道路改良工事に先立つ調査である。施工内容は、北側耕作地への道路拡幅であるが、現道部と耕作地で最大3 m程の高低差を有し、拡幅部については全体的に削平が発生することから、東西に延びる現道部に沿って拡幅部のはほぼ全体を調査区とした。また調査区中央部から東側が1.4 m程落ち込んでいることから、西侧を調査区上段、東側を調査区下段とした。

### 第2節 調査の方法

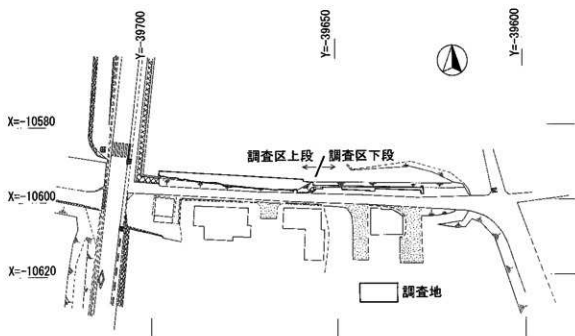
両調査区とも現表土直下で遺構が検出されると想定されたため、表土除去も含めて掘削はすべて人力により実施した。

調査区上段では、現耕作土であるⅠ層除去後のⅡ層上面にて、調査区下段では、現表土であるⅠ層及び近代以降のⅢ耕作土であるⅡ層除去後のⅢ層上面にて遺構検出を実施した。検出した遺構については、土坑・溝状遺構の略号をS、小穴の略号をPとし、それぞれに通し番号を付した。

出土遺物については、遺構外出土遺物は調査区ごとに、遺構内出土遺物は遺構ごとに取り上げを実施した。

小規模な調査区であったため、グリッドは設定せず、調査区の形状や遺構の検出状況に合わせて任意の基準点を設けて記録作業を実施した。遺構の実測は手作業で実施し、縮尺は1/20とした。

遺構の写真撮影は、S番遺構及びP番遺構の一部については中判カメラにて、それ以外についてはデジタルカメラにて実施した。



第3図 調査区全体図 S=1:1000

### 第Ⅲ章 調査成果

#### 第1節 調査概要

今回の調査は、市道の拡幅工事により掘削される部分に調査区を設定したため、東西に細長い調査区となり、面積も全体で135㎡（上段：98㎡ 下段：37㎡）と小規模である。特に調査区下段については、既に大きく削平されており、拡幅幅も狭いことからトレンチ調査の様相を呈している。

調査の結果、中世の遺構・遺物を確認したが、調査区全体が削平されていることから遺構上部は消失していると思われる。遺構の大半は調査区上段に所在し、調査区下段では、溝状遺構1基と少量の遺物が確認されたのみである。調査区上段では、上坑3基、溝状遺構3基、小穴85基を検出した。（第6・7図）

農地造成及び耕作の影響により遺物包含層は残存していないが、耕作土中に多量の遺物小片が含まれていた。中世の土師器を中心に、瓦器、瓦質土器、青磁が確認され、弥生土器片及び古代の須恵器片が多少混入している。

#### 第2節 層序（第4・5図）

調査地は、北から南への傾斜地のほぼ中腹に位置しているが、現況は耕作地（それ以前は蜜柑畑）で、その影響により大幅な削平を受けている。このため調査区上・下段とも遺構検出面1層は現耕作土及び旧耕作土である。調査区上段の上層図を第4図に、調査区下段の上層図を第5図に掲載した。各土層の内容は以下のとおりである。

##### ・調査区上段（第4図）

###### I層：表土

現在の耕作上で、土中に多量の遺物片を含む。

###### II層：明褐色土（7.5YR5/6）

しまりがあり、粘性を有する。上部は農地造成及び耕作により削平を受ける。無遺物層。

##### ・調査区下段（第5図）

###### I層：現在の表土・攪乱

旧耕作土と思われる。空缶・ガラス片等を含む。

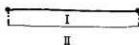
###### II層：褐色土（7.5YR4/4）

しまりがなく、粘性を有する。旧耕作土と思われる。近・現代の遺物を含む。

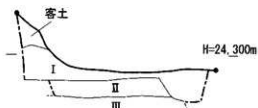
###### III層：明赤褐色土（5YR5/6）

しまりがあり、粘性を有する。樹根及び人為的な攪乱を受ける。本来は調査区上段II層下に位置する層と思われる。

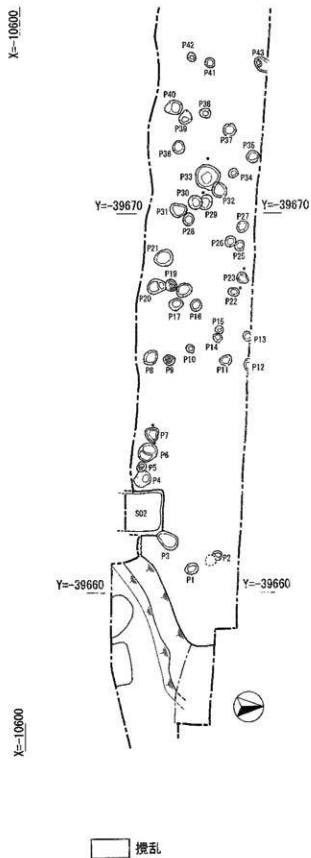
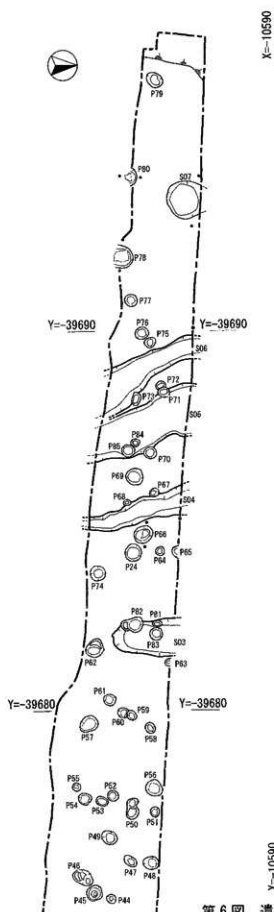
H=26,000m



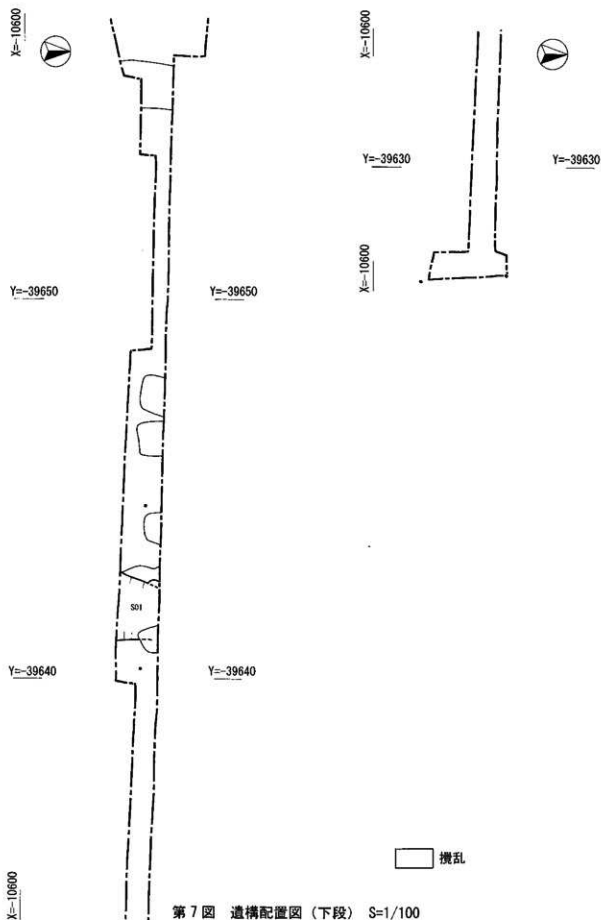
第4図 基本土層図（上段） S=1/40



第5図 基本土層図（下段） S=1/40



第 6 図 遺構配置図 (上段) S=1/100



第 7 図 遺構配置図 (下段) S=1/100



### 第3節 遺構及び遺物

#### (1) 中世期の遺構・遺物

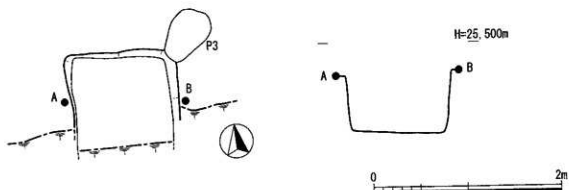
##### 1. 土坑

土坑は、調査区上段で3基検出した。すべて耕作等の影響により上部を削平されていると考えられる。各遺構の詳細は以下のとおりである。

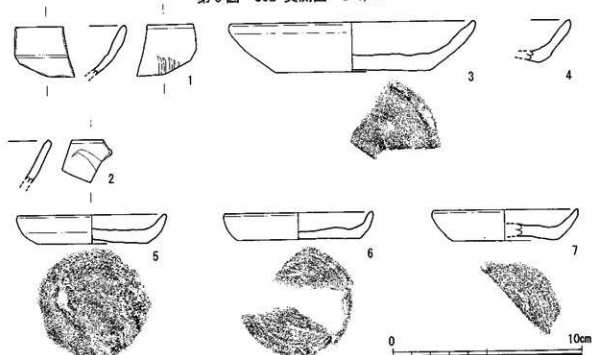
##### S02 (第8・9図)

調査区上段の南東部に検出した。遺構南側は削平により消失しているが、方形若しくは長方形を呈するものと考えられる。検出面で東西1.15m、南北1m、深さ0.65mを測り、断面形はほぼ方形である。埋土は暗赤褐色土(5YR3/1)で、しまりが弱く、わずかに粘性を有する。土中に粒状(1cm前後)のⅡ層土(明褐色土 7.5YR5/6)を多量に混入する。

遺構内からは、中世の土師器(杯・皿)を中心とし、同時期の瓦器片数点と青磁片(2点)が出土しているが、底面直上からの出土は認められない。また、古代の須恵器小片及び弥生土器小片が混入している。出土遺物として実測可能であった7点を掲載した(第9図)。



第8図 S02 実測図 S=1/40



第9図 S02 出土遺物実測図 S=1/2

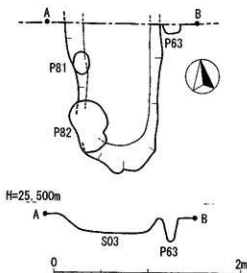
1・2は青磁碗の口縁部である。1は外面に櫛横文、2は外面に片切彫蓮弁文が施文される。3・4は土師器杯である。両者とも糸切り離しと思われるが、磨耗により不明瞭である。5～7は土師器皿である。すべて糸切り離しで、5・6には切り離し後の板状圧痕が認められる。

#### S03(第10・11図)

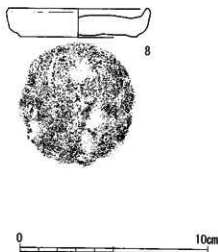
調査区上段のほぼ中央部で検出した。南北に細長い形状で、北側は調査区外に延びる。小穴2基(P81・82)により切られ、小穴1基(P83)を切っている。検出面で東西1.0m、南北1.6m、深さ0.8mを測り、断面形は逆台形を呈する。埋土は黒褐色土(7.5YR3/2)で、ややしまり、わずかに粘性を有する。粒状のⅡ層土及び炭化物を少量含む。

出土遺物は、中世の土師器(杯・皿)小片と、同時期の瓦器・瓦質土器(播鉢)小片である。また、弥生土器小片1点が混入している。出土遺物として土師器1点を掲載した(第11図)。

8は土師器皿である。底部は糸切り離しで、切り離し後の指頭圧痕が認められる。



第10図 S03 実測図 S=1/40



第11図 S03 出土遺物実測図 S=1/2

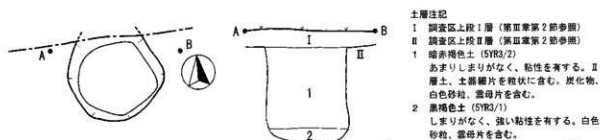
#### S07(第12～15図)

調査区上段の北東部で検出した。やや不整な円形を呈し、北側のごく一部は調査区外におよぶ。検出面で東西1.0m、南北9.0m、深さ1.0mを測り、断面形は方形を呈するが、底部は中央に向かってやや丸みを帯びる。埋土は2層に分けられる。上層(1層)は暗赤褐色土(5YR3/2)で、あまりしまりがなく粘性を有する。粒状のⅡ層土及び炭化物を含む。下層(2層)は黒褐色土で、しまりがなく強い粘性を有する。

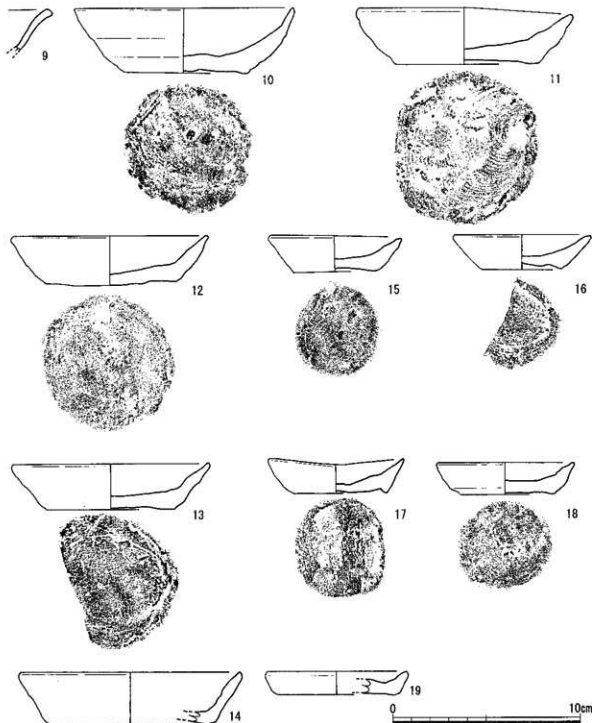
遺構内からは、中世の土師器(杯・皿)を中心とし、同時期の青磁片(1点)、瓦質土器片(2点)と古銭(1点)が出土している。すべて上層(1層)からの出土で、他の土坑とくらべ完形品が多い。出土遺物については12点を掲載した(第13～15図)。

9は青磁碗の口縁部であるが、小片のため施文の有無は不明である。10～14は土師器杯である。底部はすべて糸切り離しと思われるが、14のみ磨耗により不明瞭である。11・12には切り離し後の指頭圧痕が認められる。15～19は土師器皿である。底部はすべて糸切り離しと思われるが、19のみ磨耗により不明瞭である。15には切り離し後の指頭圧痕、17には板状圧痕が認められる。20は瓦質土器の播鉢で、内器面に6本単位の播目を認める。21は北宋銭の天聖元寶である。

H=26,000m



第12図 S07 実測図 S=1/40



第13図 S07 出土遺物実測図1 S=1/2

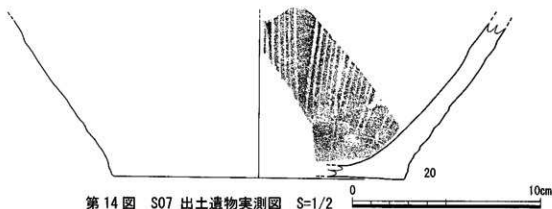


表2 古銭観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	種類	径(mm)	重量(g)	層位	備考
第15図	21	S07	天聖元寶	25	3	1層	1023年初鑄

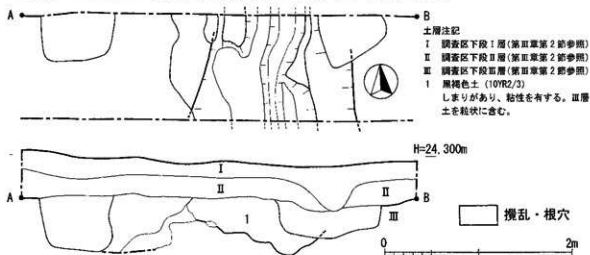
## 2. 溝状遺構

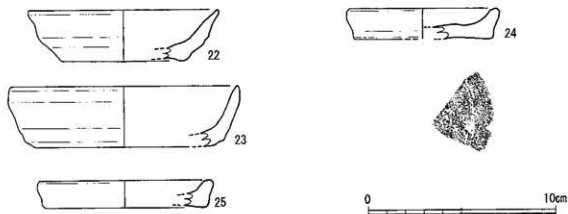
溝状遺構は、調査区下段で1基、上段で3基検出した。すべて調査区を南北に横断しているが、遺構上部及び南側は耕作等の影響により消失している。各遺構の詳細は以下のとおりである。

### S01(第16・17図)

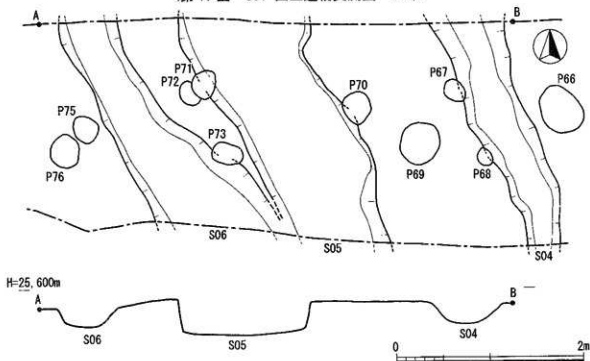
調査区下段の中央部で検出した。近代以降の削平・攪乱により遺構の大半が消失している。検出面で南北1.1m、最大幅1.7m、深さ0.6mを測り、2段のテラスを経て、遺構中央部で最下面にいたる。底部は最大幅0.2mを測る。埋土は黒褐色土(10YR2/3)で、しまりがあり、粘性を有する。Ⅲ層土を粒状・ブロック状に含む。

遺構内からは、中世の土師器(杯・皿)を中心に、同時期の瓦器・瓦質土器小片が出土している。また、古代の須恵器小片が少量混入する。出土遺物については、4点を掲載した(第17図)22・23は土師器杯である。底部は糸切り離しと思われるが、磨耗により不明瞭である。24・25は土師器皿である。24は底部糸切り離し、25は磨耗により不明瞭である。





第17図 S01 出土遺物実測図 S=1/2



第18図 S04・S05・S06 実測図 S=1/40

#### S04 (第18図)

調査区上段西側で検出した。上部は畑地造成及びその後の耕作により消失している。遺構北側は調査区外へ延び、南側は現市道設置時に削り取られたと思われる。検出面で南北2.5m、最大幅0.7m、深さ0.24mを測り、断面は浅い逆台形を呈する。埋土は暗赤褐色土(5YR3/2)で、しまりがあり、多少粘性を有する。

遺構内からは、いずれも細片であるが、中世の土師器(杯・皿)数点、青磁碗1点、瓦器1点、瓦質土器(搔鉢)1点が出土している。また、古代の須恵器(高台付杯)1点が混入している。

#### S05 (第18・19図)

調査区上段西側で検出した。S04から西に1m程の地点に位置しており、S04と同様の残存状況である。小穴(P84・85)を切っている。検出面で南北2.5m、最大幅2.2m、深さ0.4mを測り、断面は長方形を呈する。埋土は黒褐色土(7.5YR3/1)で、ややしまりがあり、多少粘性を有する。

遺構内からは、中世の土師器片(杯・皿)を中心に、青磁碗片(3点)、瓦質土器片(3点)が

出土している。また、古代の須恵器片4点が混入している。これらの内5点を掲載した（第19図）。

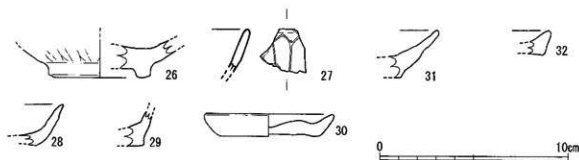
26は青磁碗の底部で、外面に竊進弁文が施文される。27は青磁碗の口縁部で、外面に細蓮弁文が施文される。28・29は土師器坏である。底部は両者とも磨耗により不明瞭だが、わずかに糸切り離しの痕跡を認める。30は土師器皿である。底部は磨耗により不明瞭だが、わずかに糸切り離しの痕跡を認める。

#### S06（第18・19図）

調査区上段西側で検出した。S05の西隣に位置し、S04・05と同様の残存状況である。検出面で南北2.5m、最大幅1.1m、深さ0.2mを測り、断面は浅い逆台形を呈する。埋土は黒褐色土（7.5YR3/1）で、ややしまりがあり、わずかに粘性を有する。

遺構内からは、中世の土師器小片（杯・皿）が出土している。また、古代の須恵器小片1点が混入している。これらの内2点を掲載した（第19図）

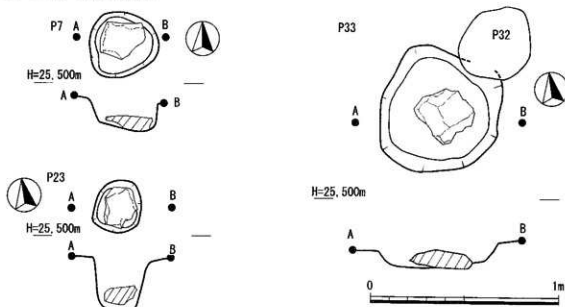
31は土師器杯である。32は土師器皿で、底部は糸切り離しである。



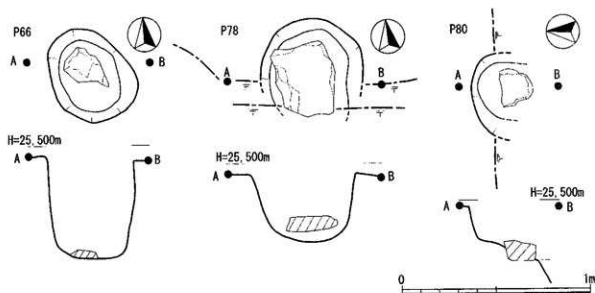
第19図 S05・S06 出土遺物実測図 S=1/2

#### 3. 小穴（第6図 第20～23図）

小穴は、調査区上段で85基を検出した。内6基で遺構内に根回れと思われる石材が認められた（P7・23・33・66・78・80）。これらの小穴は、掘立柱建物や橋等を形成するものと想定しているが、調査範囲の制限もあり、明確に確認することができなかった。各小穴の詳細については、表3の小穴一覧表に記す。



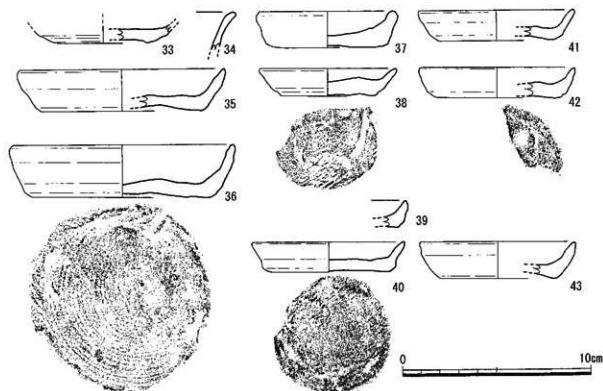
第20図 P7・P23・P33 実測図 S=1/20



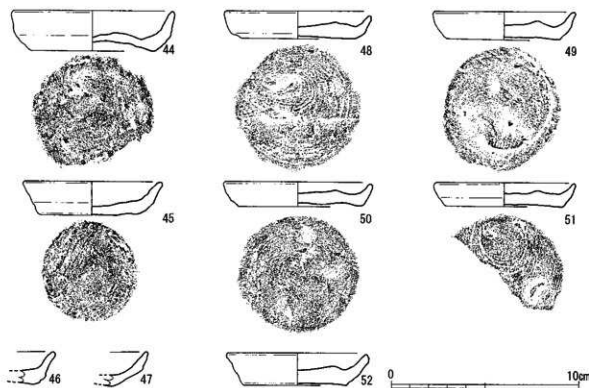
第21図 P66・P78・P80 実測図 S=1/20

遺物は、中世の土師器片（杯・皿）を中心に、少量の青磁片・瓦器片・瓦質土器片が出土しているが、P66では、ほぼ完形の遺物が集中して確認された（杯1点・皿3点）。また一部で古代の須恵器小片がわずかに混入する。これらの内20点を掲載した。（第22・23図）

33は青磁皿、34は青磁碗である。35・36は土師器杯である。両者とも底部は糸切り離しである。37～52は土師器皿である。磨耗により不明瞭なものがあるが、すべて糸切り離しと思われる。内38・40・44・45・48には、切り離し後の板状圧痕、42・49・50・51には、切り離し後の指頭圧痕が認められる。各遺物の出土遺構については、表4出土遺物観察表を参照されたい。



第22図 小穴内出土遺物実測図1 S=1/2



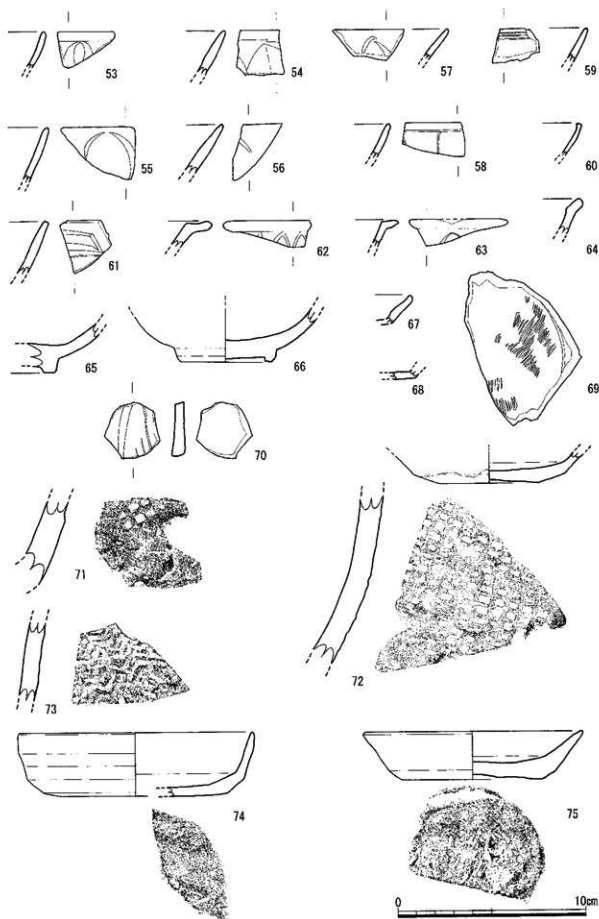
第23図 小穴内出土遺物実測図2 S=1/2

#### 4. 遺構外の出土遺物（第24～26図）

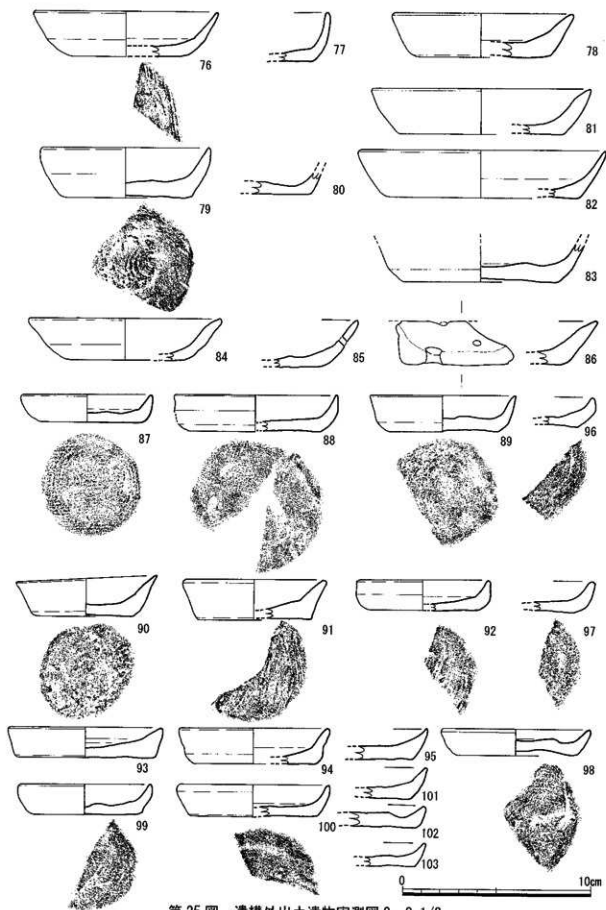
遺構外の出土遺物は、大半が調査区上段Ⅰ層（現耕作土）の出土で、調査区下段の出土はごく僅かである。また現耕作の影響を受けており、小片での出土が大半である。遺物の主体は中世の土師器（杯・皿・碗）であり、同時期のものと思われる青磁、須恵器、瓦器、瓦質土器が多少含まれる。これらのうち69点を掲載した。

第24図53～61は青磁碗の口縁部で、調査区上段Ⅰ層の出土である。53・54は外面に鑄蓮弁文、55・56は外面に片切彫蓮弁文、57は内面に片切彫蓮弁文、59は内面の口縁部直下に沈線3条が施文される。58は外面に草花文、61は外面に雷文らしき施文が認められるが小片のため明確ではない。60は小片のため施文の有無は不明である。62～64は青磁杯の口縁部で調査区上段Ⅰ層の出土である。62・63は外面に片切彫蓮弁文が施文される。64は小片のため施文の有無は不明である。第24図65・66は青磁碗の底部である。65は調査区上段Ⅰ層出土、66は調査区下段での表採品である。第24図67～69は青磁皿で、調査区上段Ⅰ層の出土である。69は内底面に描文が施文される。第24図70は青磁の二次加工品で、調査区上段Ⅰ層の出土である。元は碗であったと思われる、内面に草花文らしき施文が認められる。縁辺を打ち欠いて加工しているが用途は不明である。第24図71～73は須恵器片で、71・72は轆轤轆轤窯産と思われる。調査区上段Ⅰ層の出土である。第24図74・75、第25図76～85は土師器杯で、78・79・83は調査区下段2層、その他は調査区上段Ⅰ層の出土である。底部はすべて糸切り離しで、74～76には板状圧痕が観察できる。また、85には焼成前穿孔1ヵ所、86には焼成後穿孔3ヵ所が認められる。第25図87～103、第26図104～112は土師器皿で、111・112は調査区下段2層、その他は調査区上段Ⅰ層の出土である。底部はすべて糸切り離しで、87～96には板状圧痕が観察される。第26図113は土師器碗の底部で、高台内を除き赤彩が認められる。調査区上段Ⅰ層の出土である。

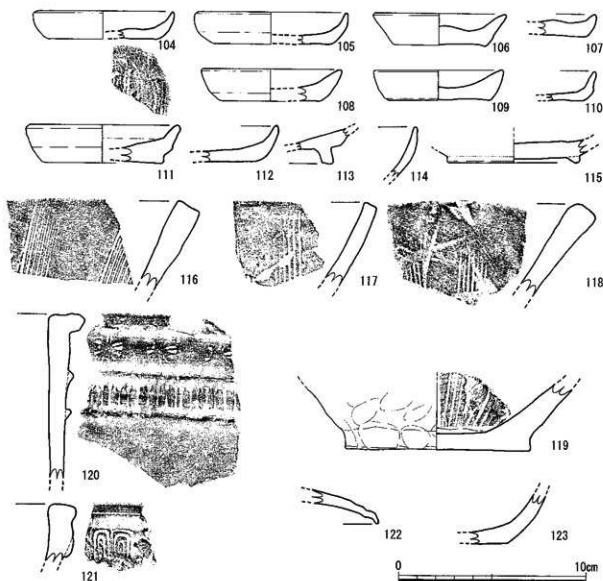




第 24 図 遺構外出土遺物実測図 1 S=1/2



第 25 図 遺構外出土遺物実測図 2 S=1/2



第26図 遺構外出土遺物実測図3 S=1/2

第26図114・115は瓦器碗で、114が調査区上段I層、115は調査区下段2層の出土である。第26図116～119は瓦質土器の播鉢で、内器面には116・118に7本単位、117には6本単位、119に5本単位の摺目が認められる。116・117が調査区上段I層、118・119は調査区下段の表採品である。第26図120・121は瓦質土器の火鉢で、調査区上段I層の出土である。

(2) その他の遺物 (第26図122・123)

その他の遺物としては、弥生土器小片や古代の須恵器小片がわずかに出土している。このうち古代の須恵器2点を掲載した。

122は須恵器蓋で、調査区下段の表採品である。123は須恵器杯の底部で、調査区上段I層の出土である。

## 第IV章 考察

### 1. 古代末から中世の伊倉

建久の終わりに宇佐八幡宮がその所領と由来を記した「八幡宇佐宮御神領大鏡」(以下宇佐大鏡)によると、古代伊倉は玉名郡司口置氏により開発された所領であったとある。「宇佐大鏡」によれば、その後伊倉は承保元年(1074)に口置氏から筑前講師永源に売り渡され、康和5年(1103)宇佐大宮司公順の手に渡り宇佐八幡宮領(伊倉別符)となった。その後伊倉別符は、宇佐大宮司に代々譲渡相伝され、公順以来宇佐八幡宮の荘園として官物(米)のみを同に納める「半不輸之神領」となったが、この荘園管理のために派遣されたのが宇佐氏と考えられる。宇佐氏についてはその出自等不明な点が多いが、宇佐を名乗ることから、宇佐八幡宮大宮司の一派あるいはそれに近い一族と想定され、荘園化とほぼ同時に勧請されたと考えられる古伊倉八幡宮の宮司を兼ねた在地領主であったと考えられる。

関東に鎌倉幕府が成立すると、地方を管理するため各地に地頭が任命されたが、伊倉の地頭となったのが、地名を苗字とする伊倉氏であった。伊倉氏についてもその出自等不明な点が多いが、肥後在地の武士団一族と想定される。

このように、宇佐氏は平安時代末期以来伊倉別符の在地領主として荘園を治め、伊倉氏は鎌倉幕府の地頭職として同じ伊倉の地を治めたが、両者は一つの所領支配をめぐる対立することになる。このような対立を解消するために実施されたのが下地中分であり、伊倉の地でもそれが実施されたと考えられている。その結果下地中分線から北側(伊倉北方)を宇佐氏、南側(伊倉南方)を伊倉氏が領有するようになった。伊倉本堂山にある宇佐八幡宮関係古塔碑群のうちの一基、元亨二年(1322)11月26日沙弥行忠供養塔に「伊倉保一方地頭沙弥行忠」という銘があるが、ここで言う伊倉保一方地頭とは、伊倉保(伊倉別符)の一方の地頭を意味し、元亨二年時点で伊倉別符は二分されていたことを示している。下地中分線については、伊倉南北八幡宮を隔てる県道肥後伊倉停車場田崎線と想定されており(文献14)、下地中分を期に一社であった古伊倉八幡宮が南北に分かれたものと思われる。

室町時代になると、南北朝の争乱において、南朝方であった伊倉氏は歴史からその姿を消すこととなるが、宇佐氏は、伊倉南北八幡宮の宮司職を兼ねた武士団の惣領家として、その後も伊倉の地に名を残すこととなる。

### 2. 周辺での調査状況

今回の調査地は、先に述べた下地中分推定線から200m程南に位置している。当該地一帯には、「中城」・「土井の内」・「屋敷」といった字名が残っており、以前よりこの一帯が中世城館跡である可能性が指摘されていた(文献15)。平成10～14年度には、玉名市歴史博物館ころピアにより伊倉城跡範囲確認調査が実施され、また開発行為に伴う発掘調査も複数回実施されている。各調査では、主に13～14世紀代の遺構(土坑・溝状遺構・堀状遺構・小穴等)や遺物(土師器・青磁・白磁・瓦器・瓦質土器等)が多数確認されている。これらの調査成果から、当該地一帯が、伊倉南方を領有した伊倉氏の城館跡である可能性が高いとされている(文献4)。

### 3. 今回の調査成果

今回の調査は、市道拡幅に伴い実施したものであるが、調査対象が拡幅部分であったことから、東西に細長く狭小な範囲での調査となった。また、近代以降の造成、耕作等の影響により、遺跡の

残存状況はきわめて悪い状況であった。特に調査区下段においては、ごく少量の遺物と溝状遺構1基のみの確認であり、またその遺構も造成による削平とその後の擾乱でほぼ原形を留めない状況であった。調査区上段においても造成及び耕作の影響から、現耕作土中に遺物片が混入し、その直下で遺構が確認される状況であった。

確認された遺構は、土坑3基、溝状遺構4基、小穴85基であるが、前述した調査区の制限や、残存状況の悪さからその性格は明確でない。ただ、小穴の内6基に根固めと思われる石材が認められることから、掘立柱建物や櫓の存在が想定される。遺構内出土遺物の大半は土師器の皿・坏であるが、少量の青磁片、瓦器片、瓦質土器片も含まれる。青磁片の大半は、龍泉窯系の碗・皿であり、13世紀代のものと考えられることから、遺構群も同時期のものと考えられる。

#### 4. 今後の課題

今回の調査では、小規模かつ近年の擾乱が激しく、遺跡の様相を正確に把握するには至っていない。これまでの周辺部での調査結果も含め、当該地一帯に13～14世紀代の城館跡が存在する可能性は高いと考えられるが、その詳細な範囲や内容はまだ明確にはなっていない。今後は、周辺部でのさらなる発掘調査も含め遺跡の全体像を解明する必要があると考えられる。

#### 参考文献

- 1.『玉名市史 資料篇1 絵図・地図』玉名市 1992年
- 2.『玉名市史 資料篇3 自然・民俗』玉名市 1993年
- 3.『玉名市史 通史編 上巻』玉名市 2005年
- 4.『伊倉城跡－伊倉城跡範囲確認調査報告－』玉名市立歴史博物館こころピア 2003年
- 5.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅰ』玉名市教育委員会 2002年
- 6.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ』玉名市教育委員会 2004年
- 7.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ』玉名市教育委員会 2006年
- 8.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅳ』玉名市教育委員会 2008年
- 9.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅴ』玉名市教育委員会 2009年
- 10.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅵ』玉名市教育委員会 2009年
- 11.『玉名市内遺跡調査報告書Ⅶ』玉名市教育委員会 2011年
- 12.『玉名市遺跡地図－玉名市遺跡詳細分布調査－』玉名市教育委員会 2011年
- 13.『滑石小路竈式石棺』熊本県遺跡調査報告書Ⅳ 玉名市教育委員会 1985年
- 14.田邊哲夫「伊倉の歴史(上)」『歴史玉名14号』玉名歴史研究会 1993年
- 15.『熊本県の中世城跡』熊本県教育委員会 1978年
- 16.『概説 中世の七器・陶磁器』中世土器研究会 1995年
16. 棚田健生「肥後における須恵器生産の終焉」『中世土器研究論集－中世土器研究会20周年記念論集』中世土器研究会 2001年
17. 美濃口雅則「熊本県における中世前期の上師器について」『中世土器の基礎研究Ⅹ 回転土師器の諸様相』日本中世土器研究会 1994年

表3 小穴一覧表

遺構名	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層注記	備 考
P1	楕円形	34	26	10	黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりありわずかに粘性有する。 土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P2	円形	24	22	13	黒褐色土 (5YR2/2) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	電柱跡により攪乱を受ける
P3	楕円形	58	42	16	黒褐色土 (7.5YR2/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 土器小片、白色砂粒、雲母片含む。	S02 を切る
P4	楕円形	48	38	29	暗赤褐色土 (5YR3/2) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土を含む。	P5 により切られる
P5	円形	24	24		暗赤褐色土 (5YR3/2) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土を含む。	P4 を切る
P6	楕円形	52	46		黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P7	楕円形	38	34	18	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	根固め石有
P8	楕円形	42	32	14	黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしまりなくほとんど粘性有しない。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P9	円形	26	24	24	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P10	円形	19	19	22	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P11	楕円形	32	28	22	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P12	楕円形	30	—	40	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりありわずかに粘性有する。 炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	調査区外へおよぶ
P13	円形	23	22	12	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	調査区外へおよぶ
P14	円形	22	22	9	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	
P15	楕円形	22	20	36	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	
P16	楕円形	34	28	31	極暗褐色土 (7.5YR2/3) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P17	楕円形	38	32	13	暗赤褐色土 (5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P18	楕円形	42	36	23	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P19	円形	28	28	31	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P20 を切る
P20	楕円形	(50)	38	56	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P19 により切られる
P21	楕円形	49	42	65	暗赤褐色土 (5YR3/3) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P22	楕円形	28	22	23	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P23	楕円形	28	24	29	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	根固め石有
P24	円形	44	44	43	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P25	楕円形	28	22	12	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P26	楕円形	29	26	18	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P27	楕円形	32	28	20	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P28	楕円形	32	26	13	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P29	楕円形	42	30	16	暗赤褐色土 (2.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P30 により切られる
P30	円形	35	35	33	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P29 を切る
P31	楕円形	42	38	22	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P32	楕円形	42	36	33	黒褐色土 (5YR3/1) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	P33 を切る

遺構名	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層注記	備 考
P33	円形	63	63	14	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	P32により切られる 根固め石有
P34	円形	23	23	17	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P35	楕円形	32	30	39	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P36	楕円形	34	30	36	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P37	楕円形	34	32	45	暗褐色土 (7.5YR3/3) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P38	楕円形	28	24	8	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 ブロック状の上段Ⅱ層土、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P39	楕円形	36	32	39	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P40	楕円形	45	36	57	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P41	円形	24	24	29	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P42	楕円形	22	19	17	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P43	楕円形	(47)	35	62	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	調査区外へおよぶ
P44	円形	23	23	12	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P45	円形	40	40	28	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P46	楕円形	57	37	65	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P47	楕円形	34	22	40	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P48	楕円形	40	34	63	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P49	楕円形	44	34	44	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P50	楕円形	56	30	41	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P51	楕円形	26	22	9	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P52	円形	28	28	7	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P53	楕円形	30	25	23	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、白色砂粒、雲母片含む。	
P54	楕円形	32	29	16	暗赤褐色土 (5YR3/2) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P55	円形	22	22	17	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	
P56	楕円形	47	42	63	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P57	楕円形	50	40	31	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P58	楕円形	28	22	51	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	
P59	楕円形	27	23	29	暗赤褐色土 (5YR3/2) あまりしまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土、白色砂粒、雲母片含む。	P60を切る
P60	楕円形	(28)	26	39	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P59により切られる
P61	円形	30	28	15	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P62	楕円形	47	42	44	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P63	楕円形	19	(14)	27	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 白色砂粒、雲母片含む。	調査区外へおよぶ
P64	円形	22	22	14	黒褐色土 (5YR3/1) ややしまりありわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	

遺構名	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層注記	備 考
P65	横円形	30	—	16	黒褐色土 (5YR3/1) ややしりまりわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	調査区外へおよび
P66	横円形	52	42	55	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	根固め石有
P67	横円形	24	21	24	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S04 を切る
P68	横円形	18	16	6	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S04 を切る
P69	横円形	48	43	36	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P70	円形	32	32	11	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S05 を切る
P71	横円形	28	26	31	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S05、P72 を切る
P72	横円形	26	(20)	8	黒褐色土 (5YR3/1) ややしりまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	P71 により切られる
P73	横円形	35	21	24	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S06 を切る
P74	円形	40	40	55	黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P75	横円形	30	24	16	黒褐色土 (5YR3/1) ややしりまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P76	横円形	34	31	19	黒褐色土 (7.5YR3/1) ややしりまりありわずかに粘性有する。 ブロック状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P77	円形	30	30	26	黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしりまりなく多少粘性有する。 ブロック状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P78	円形か	54	—	35	黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしりまりなく多少粘性有する。 ブロック状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	削平により南側消失 根固め石有
P79	横円形	45	36	42	黒褐色土 (10YR3/2) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	
P80	横円形か	44	—	29	黒褐色土 (7.5YR3/2) あまりしりまりなく多少粘性有する。 ブロック状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	削平により南側消失 根固め石有
P81	横円形	22	17	19	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなくわずかに粘性有する。 炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S03 を切る
P82	横円形	54	40	45	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなくわずかに粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S03 を切る
P83	円形	32	32	40	黒褐色土 (7.5YR3/2) ややしりまりあり多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S03 により切られる
P84	円形	18	18	9	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S05 により切られる
P85	円形	32	32	29	黒褐色土 (7.5YR3/1) あまりしりまりなく多少粘性有する。 粒状の上段Ⅱ層土・土器細片、炭化物、白色砂粒、雲母片含む。	S05 により切られる



表4 出土遺物観察表

発掘地	発掘位置	出土位置	遺物	部 位	口徑	高さ	断面			結 晶	色		備 考
							内 面	外 面	断面		内 面	断面	
第9区	1	S-02	青磁碗	口縁～胴中位	(2.6)	—	凹貼ナデ 一様方向交錯	凹貼ナデ 片切直線	凹貼ナデ 片切直線	整塊	灰オリーブ色 5YR/2	灰オリーブ色 5YR/2	同安楽系か
第9区	2	S-02	青磁碗	口縁～胴中位	(2.2)	—	凹貼ナデ 片切直線	凹貼ナデ 片切直線	凹貼ナデ 片切直線	整塊	灰オリーブ色 5YR/3	灰オリーブ色 5YR/3	同安楽系
第9区	3	S-02	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.6	(13.2)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石を多少含む	にぶい褐色 7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	にぶい褐色
第9区	4	S-02	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.2	—	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい黄褐色 10YR/3	10YR/3	にぶい黄褐色
第9区	5	S-02	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.5	8.0	凹貼ナデ か	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい黄褐色 10YR/4	10YR/4	にぶい黄褐色
第9区	6	S-02	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.4	(8.0)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい黄褐色 10YR/4	10YR/4	にぶい黄褐色
第9区	7	S-02	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.6	(7.6)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい黄褐色 10YR/3	10YR/3	にぶい黄褐色
第11区	8	S-03	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.5	7.4	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい褐色 7.5YR 7/4	7.5YR 7/4	にぶい褐色
第13区	9	S-07	青磁碗	口縁～胴上位	(2.2)	—	凹貼ナデ	凹貼ナデ	凹貼ナデ	整塊	灰オリーブ色 7.5YR/2	灰オリーブ色 7.5YR/2	同安楽系か
第13区	10	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	3.5	11.8	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石を多少含む	褐色 7.5YR/6	褐色 7.5YR/6	褐色 7.5YR/6
第13区	11	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	3	11.6	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	褐色 7.5YR/6	褐色 7.5YR/6	褐色 7.5YR/6
第13区	12	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.6	10.6	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色
第13区	13	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.4	(10.6)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	明黄褐色 10YR/7/4	明黄褐色 10YR/7/4	にぶい黄褐色
第13区	14	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.7	(12.0)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/3	淡黄褐色 10YR/6/3	淡黄褐色
第13区	15	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.0	7.2	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色
第13区	16	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.8	(7.4)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石を多少含む	にぶい黄褐色 10YR/7/4	にぶい黄褐色 10YR/7/4	にぶい黄褐色
第13区	17	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.9	7.3	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色
第13区	18	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.7	7.4	凹貼ナデ 一部スチ付着	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色
第13区	19	S-07	土師器鉢(中世)	口縁～底部	1.2	(7.6)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、石炭、角閃石、金剛砂片を多少含む	褐色 10YR/5/1	褐色 10YR/5/1	褐色
第14区	20	S-07	瓦葺土器鉢(中世)	口縁～底部	(8.3)	—	凹貼ナデ 6本	凹貼ナデ 6本	凹貼ナデ 6本	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	にぶい褐色 7.5YR/6/4	にぶい褐色 7.5YR/6/4	にぶい褐色
第17区	22	S-01	土師器鉢(中世)	口縁～底部	2.7	(10.2)	凹貼ナデ	凹貼ナデ 底部糸切り	凹貼ナデ 底部糸切り	細かい裏石、角閃石、金剛砂片を多少含む	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色 10YR/6/4	淡黄褐色

母型	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	口径	底径	断面		胎土	焼成	色		備考
								内面	外面			内面	外面	
第17型	23	S-01	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	3.2	(12.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	淡黄褐色 10R6/4	にふい黄褐色 7.5R7/4	
第17型	24	S-01	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.6	(8.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	10R7/4	10R7/4	
第17型	25	S-01	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.4	(9.4)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	10R7/3	10R6/3	
第19型	26	S-05	一括	青磁碗	胴下位~底部	(2.0)	—	同径ナデ	ナデ、胎土は硬質で文 化部へラフナズ	焼通される 堅緻	良	5Y5/2	灰オリーブ色 5Y5/2	高台外部まで施 青 陶 器 系
第19型	27	S-05	一括	青磁碗	口縁~胴上位	(2.2)	—	同径ナデ	同径ナデ	焼通される 堅緻 やや褐色がかる	良	5Y6/1	オリーブ灰色 5Y6/1	陶器系
第19型	28	S-05	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	2.1	—	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	普通	7.5R6/4	7.5R6/4	
第19型	29	S-05	一括	土師器鉢(中世)	胴下位~底部	(1.8)	—	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	普通	7.5R6/4	7.5R6/4	外周面をめぐりに赤 褐色の斑を施す
第19型	30	S-05	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.1	(7.0)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	普通	7.5R6/4	7.5R6/4	
第19型	31	S-06	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	2.5	—	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	普通	10R6/4	10R6/4	
第19型	32	S-06	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.3	—	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	10R6/4	10R6/4	
第26型	33	P-21	一括	青磁皿	胴下位~底部	(0.9)	—	同径ナデ	同径ナデ	焼通される 堅緻	良	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰オリーブ色 7.5Y6/2	陶器系
第26型	34	P-69	一括	青磁碗	口縁~胴上位	(2.0)	—	同径ナデ	同径ナデ	焼通される 堅緻	良	5Y6/2	灰オリーブ色 5Y6/2	陶器系
第26型	35	P-57	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	2.2	(11.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	
第26型	36	P-66	一括	土師器鉢(中世)	実形	2.7	11.9	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第26型	37	P-4	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.9	(7.3)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	普通	10R7/3	淡黄褐色 10R6/4	
第26型	38	P-9	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.5	(7.4)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	
第26型	39	P-30	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.4	—	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第26型	40	P-35	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.6	(8.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	10R7/4	にふい黄褐色 10R7/4	
第26型	41	P-35	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.6	(8.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第26型	42	P-35	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.6	(8.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第26型	43	P-43	一括	土師器鉢(中世)	口縁~底部	1.9	(8.2)	同径ナデ	同径ナデ	細い黒石、石、角閃石、 金雲母片をわずかに含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	

採 掘 場	地 点	出 土 品 位	器 種	部 位	口 径	産 地	内 面	外 面	貼 土	完成	色 面	調 色	備 考
第27回	44	P-45	土師器皿(中世)	口縁~底面	2.1	8.6	6.4	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	普通	淡黄褐色 10YR5/3	外 面 淡黄褐色 10YR5/3	
第27回	45	P-49	土師器皿(中世)	完形	1.8	7.3	5.1	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 7.5YR5/3	内 面 淡黄褐色 7.5YR5/3	
第27回	46	P-49	土師器皿(中世)	口縁~底面	1.7	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 10YR5/3	内 面 淡黄褐色 10YR5/3	
第27回	47	P-49	土師器杯(中世)	口縁~底面	1.8	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	褐色 7.5YR5/6	内 面 褐色 7.5YR5/6	
第27回	48	P-46	土師器皿(中世)	完形	1.5	7.9	6.1	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 10YR5/4	内 面 淡黄褐色 10YR5/4	
第27回	49	P-46	土師器皿(中世)	完形	1.5	7.6	6.0	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 10YR5/4	内 面 淡黄褐色 10YR5/4	
第27回	50	P-46	土師器皿(中世)	完形	1.3	7.8	6.6	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 10YR5/3	内 面 淡黄褐色 10YR5/3	
第27回	51	P-46	土師器皿(中世)	口縁~底面	1.2	7.4	6.2	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	淡黄褐色 10YR5/3	内 面 淡黄褐色 10YR5/3	
第27回	52	P-49	土師器皿(中世)	口縁~底面	1.7	7.4	5.5	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	褐色 7.5YR5/6	内 面 褐色 7.5YR5/6	
第28回	53	上段	青磁碗	口縁部	(2.1)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 10Y6/2	内 面 オリーブ灰色 10Y6/2	龍泉窯系
第28回	54	上~下段	青磁碗	口縁部	(2.3)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 5Y5/4	内 面 オリーブ灰色 5Y5/4	龍泉窯系
第28回	55	上~下段	青磁碗	口縁部	(2.8)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 5Y6/3	内 面 オリーブ灰色 5Y6/3	龍泉窯系か
第28回	56	上~下段	青磁碗	口縁部	(3.0)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	灰白色 10Y7/2	内 面 灰白色 10Y7/2	龍泉窯系か
第28回	57	上段	青磁碗	口縁部	(1.6)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	灰白色 7.5Y6/2	内 面 灰白色 7.5Y6/2	龍泉窯系か
第28回	58	上段	青磁碗	口縁部	(1.8)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 5Y6/3	内 面 オリーブ灰色 5Y6/3	
第28回	59	上段	青磁碗	口縁部	(1.8)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	灰白色 7.5Y6/2	内 面 灰白色 7.5Y6/2	
第28回	60	上段	青磁碗	口縁部	(1.7)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	灰白色 5Y5/3	内 面 灰白色 5Y5/3	
第28回	61	上段	青磁碗	口縁部	(2.8)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 10Y6/2	内 面 オリーブ灰色 10Y6/2	
第28回	62	上段	青磁碗	口縁部	(1.4)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	灰白色 7.5Y6/3	内 面 灰白色 7.5Y6/3	
第28回	63	上段	青磁碗	口縁部	(1.4)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	青オリーブ灰 2.5B7/1	内 面 青オリーブ灰 2.5B7/1	龍泉窯系
第28回	64	上~下段	青磁小瓶	口縁部	(1.8)	—	—	同結ナデ	同結ナデ 底面 糸切の彫刻状文様	良	オリーブ灰色 7.5Y6/3	内 面 オリーブ灰色 7.5Y6/3	龍泉窯系か

押印	番号	出土地点	出土層位	器種	部位	高さ	口径	底径	内径	外面	胎土	焼成	色	裏面	備考
第28回	65	上段	I	青磁碗	底部	(2.6)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	オリブ灰色 10Y6/2	外面 10Y7/2 底径 10Y6/2	龍泉系
第28回	66	下段	I・II	青磁碗	底部	(2.8)	—	(5.4)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	明オリブ灰 2.50Y7/1	明オリブ灰 2.50Y7/1	龍泉系
第28回	67	上段	I	青磁皿	口縁部	(1.5)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	明オリブ灰 2.50Y7/1	明オリブ灰 2.50Y7/1	龍泉系
第28回	68	上段	I	青磁皿	底部	(0.5)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 5Y6/2	底オリブ色 5Y6/2	龍泉系
第28回	69	上段	I	青磁皿	底部	(1.0)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	70	上～下段	I	青磁碗	二次加工品	—	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	71	上段	I	須恵器(中世)	胴部	(4.4)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	72	上段	I	須恵器(中世)	胴部	—	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	73	上段	I	須恵器(中世)	胴部	—	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	74	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	3.4	(12.8)	(9.8)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	75	上～下段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.5	(11.8)	7.4	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	76	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.4	(10.0)	(6.0)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	77	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.6	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	78	下段	I・II	土師器(中世)	口縁～底部	2.3	(9.8)	(7.4)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	79	下段	I・II	土師器(中世)	口縁～底部	2.6	(9.2)	(6.4)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	80	上段	I	土師器(中世)	底部	(1.1)	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	81	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.4	(11.8)	(8.6)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	82	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.5	(13.4)	(10.6)	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	83	下段	I・II	土師器(中世)	胴部	(2.0)	—	8.2	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	84	下段	I・II	土師器(中世)	口縁～底部	2.2	10.2	6.2	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系
第28回	85	上段	I	土師器(中世)	口縁～底部	2.5	—	—	底径ナナ 底径	底径ナナ 底径	焼成される 聖職	良	底オリブ色 7.5Y6/2	底オリブ色 7.5Y6/2	龍泉系

棟 号	出土地点	出土層位	器 種	部 位	口徑	底徑	装 置		土 質	焼成	色 澤		備 考
							内 面	外 面			内 面	外 面	
第29回 85	上段	I	土師器杯 (中世)	口縁~底部	2.3	—	—	—	細かい黒石、角閃石を 含む	良	淡黄褐色 7.5R6/6	淡黄褐色 7.5R6/6	佛波遺跡、3カ所
第29回 87	上段	I	土師器皿 (中世)	底部	1.5	7.1	5.6	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 88	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.9	(8.6)	7.2	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 89	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.9	(7.8)	6.0	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 90	上~下段	I	土師器皿 (中世)	変形	1.8~ 2.2	7.5	5.3	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	
第29回 91	上~下段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	2.1	(7.8)	(6.2)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	
第29回 92	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.6	(7.2)	(6.0)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 93	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.6	(8.4)	(7.4)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 94	下段	I	土師器杯 (中世)	口縁~底部	1.9	(8.2)	(6.4)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	
第29回 95	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.6	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	
第29回 96	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.6	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 97	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.7	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 98	上~下段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.4	(8.0)	(6.2)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 99	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.6	(7.2)	(5.6)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 100	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.7	(8.2)	(6.6)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 101	上~下段	I	土師器皿 (中世)	変形	1.7	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 102	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.2	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第29回 103	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.3	—	—	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	良	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	
第30回 104	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.5	(7.6)	(6.0)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第30回 105	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.7	(8.2)	(6.4)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 10R6/4	淡黄褐色 10R6/4	
第30回 106	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底部	1.7	(7.2)	(5.2)	底面 水切り痕状瓦	細かい黒石、角閃石、 褐色を 含む	普通	淡黄褐色 7.5R6/4	淡黄褐色 7.5R6/4	

特 異 性	出 土 地 点	出 土 層 位	器 種	部 位	口 径	底 径	内 径	外 径	装 飾	胎 土	焼 成	内 面 色	外 面 色	備 考
第30回 107	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底面	1.2	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石を含む	普通	淡黄褐色 10YR8/3	淡黄褐色 10YR8/3	
第30回 108	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底面	1.7	(7.6)	(5.4)	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片、褐色粒を含む	普通	淡黄褐色 10YR8/4	淡黄褐色 10YR8/4	
第30回 109	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底面	1.6	(7.0)	(5.4)	—	—	細かい灰石、角閃石、褐色粒を含む	普通	淡黄褐色 7.5YR8/6	褐色 7.5YR7/6	
第30回 110	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁~底面	1.7	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	普通	淡黄褐色 10YR8/4	淡黄褐色 10YR8/4	
第30回 111	下段	I・II	土師器皿 (中世)	口縁~底面	2.0	(8.4)	(6.4)	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	淡黄褐色 7.5YR8/4	淡黄褐色 7.5YR8/4	
第30回 112	下段	新築地	土師器杯 (中世)	口縁~底面	1.9	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	普通	淡黄褐色 7.5YR8/4	褐色 2.5YR 6/6 黄褐色 5YR5/4 黄褐色 5YR5/4	
第30回 113	上段	I	土師器皿 (中世)	口縁部	(1.9)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	普通	淡黄褐色 7.5YR8/4	褐色 2.5YR 6/6 黄褐色 5YR5/4 黄褐色 5YR5/4	
第30回 114	上~下段	I	瓦器碗	口縁部	(2.7)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石を含む	良	黄灰色 2.5Y6/6	黄灰色 2.5Y6/6	漆肉内を剥く前に 彩色
第30回 115	下段	I・II	瓦器碗	底面	(1.2)	—	(7.0)	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	
第30回 116	上~下段	I	瓦質土器鉢鉢	口縁部	(4.7)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y7/2	
第30回 117	上~下段	I	瓦質土器鉢鉢	口縁部	(4.4)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/2	
第30回 118	下段	I・II	瓦質土器鉢鉢	口縁部	(4.9)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	普通	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/2	
第30回 119	下段	I・II	瓦質土器鉢鉢	底面	(3.6)	—	(10.0)	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 10YR6/1	黄灰色 10YR5/2	
第30回 120	上~下段	I	瓦質土器火鉢	口縁部	(8.7)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 10YR6/1	黄灰色 10YR5/2	
第30回 121	上~下段	I	瓦質土器火鉢	口縁部	(3.0)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 10YR6/1	黄灰色 10YR5/2	
第30回 122	下段	新築地	須高器皿 (古代)	口縁部	(1.7)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/2	
第30回 123	上段	I	須高器皿 (古代)	底面	(2.6)	—	—	—	—	細かい灰石、角閃石、雲母片を含む	良	黄灰色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/2	

# 版 图 真 写







写真1 調査地全景（下段）西から



写真2 調査地全景（上段）東から



写真3 S02 完掘状況 南から



写真4 S03 完掘状況 南西から



写真5 S07 完掘状況 北から



写真 6 S01 完掘状況 北から



写真 7 S04 完掘状況 北から



写真 8 S05 完掘状況 北から



写真 9 S06 完掘状況 北から



写真 10 P7 石材検出状況 北東から



写真 11 P23 石材検出状況 北から





写真 12 P33 石材検出状況 西から



写真 13 P66 石材検出状況 東から



写真 14 P78 石材検出状況 北から



写真 15 調査風景 東から



写真 16 S02 出土遺物



写真 17 S07 出土遺物





写真 18 S03 出土遺物

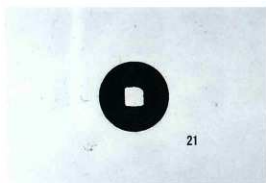


写真 19 S07 出土古銭



写真 20 S01 出土遺物



写真 21 S05・06 出土遺物



写真 22 小穴内出土遺物

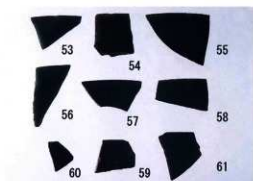


写真 23 遺構外出土遺物 1



写真 24 遺構外出土遺物 2

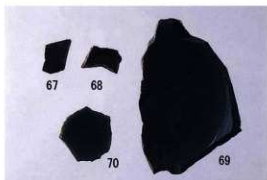


写真 25 遺構外出土遺物 3

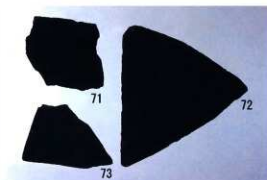


写真 26 遺構外出土遺物 4

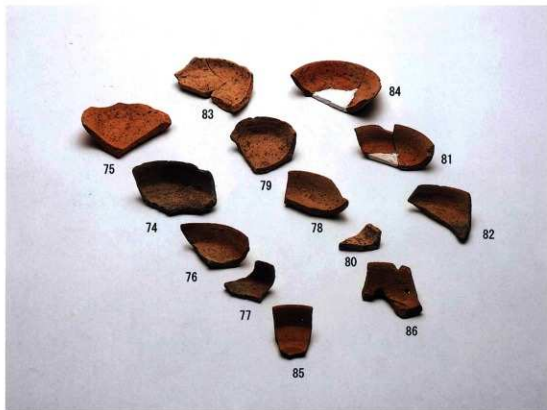


写真 27 遺構外出土遺物 5

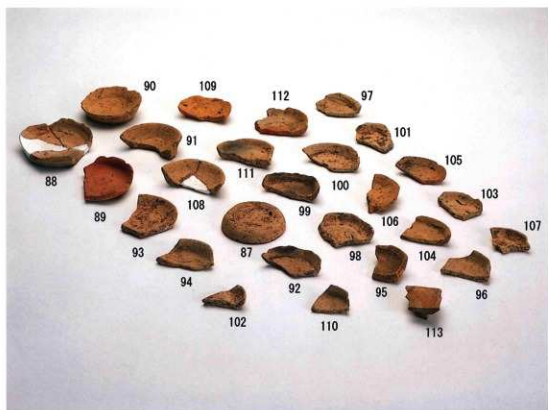


写真 28 遺構外出土遺物 6



写真 29 遺構外出土遺物 7



写真 30 遺構外出土遺物 8

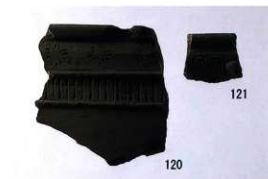


写真 31 遺構外出土遺物 9



写真 32 遺構外出土遺物 10



# 報告書抄録

ふりがな	いくらじょうあと							
書名	伊倉城跡							
副書名	市道船津宮原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	田中康雄							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129							
発行年月日	平成25年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
伊倉城跡	玉名市 宮原	43206	733	32° 54' 13"	130° 34' 72"	平成24年6月11日～ 平成24年8月17日	135㎡	市道拡幅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
伊倉城跡	城館跡	中世		土坑・溝状遺構・ 小穴		土師器・須恵器・青磁・ 瓦器・瓦質土器		

玉名市文化財調査報告 第27集

## 伊倉城跡

市道船津宮原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成25年3月28日印刷

平成25年3月29日発行

編集発行 玉名市教育委員会

〒862-0292 玉名市岱明町野門2129

印刷 株式会社 有明印刷

〒865-0022 玉名市寺田123-1